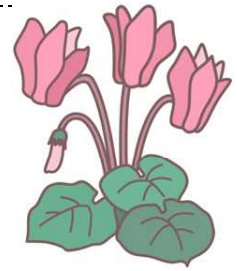


☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

1月21日(月)

『おもかげ復元師の震災絵日記』

講話 教頭 星 有子



「1万5878」この数字は何の数字だかわかりますか？ヒントは数字の最後に人(にん)をつけるとわかるかもしれません。答えを言いますね。約2年前の3月11日に起こった、東日本大震災で亡くなった人たちの命の数です。それでもまだ行方が分からない人が2700人くらいいます。

「6434」こちらの数はどうでしょう？こちらはみんなが生まれるずっと前、今から18年前の1月に起こった阪神淡路大震災で亡くなった人たちの命の数です。

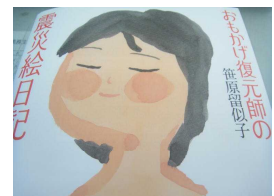
さて、阪神淡路大震災はこのあたりで起こりました。(地図に○をつける)東日本大震災はこのあたりです。(地図に○)地震の大きさを震度というのですが、阪神淡路大震災も東日本大震災も同じくらいの震度でした。それでも亡くなった命の数がこれほど違うのは、東日本大震災は範囲が広いこと、そして最大17.6mの津波が押し寄せてきて逃げ遅れて大きな水のうねりに飲み込まれてしまった人が多かったということです。私の身長が166センチですから、この10倍以上の高さの津波です。

画面の写真の人は笹原留似子(ささはらるいこ)さんといいます。復元納棺師という仕事をしています。復元はもとに戻すという意味で、納棺師は亡くなった方を棺に納める仕事をしている人という意味です。仕事の内容は、亡くなった方の目や口を閉じたり、安らかな表情になるように、お化粧をしたり、きれいな着物や洋服を着せたり、まわりを花や人形で飾ったりします。笹原さんは小学生の頃から、「人の役に立ちたい、人に喜んでほしい」という気持ちが強かったそうです。



そして、2年前東日本大震災が起こったすぐ後に、笹原さんは被災地に出かけて行って、仕事ではなくボランティアとして亡くなった人や家族と関わってきたそうです。たくさんの人の悲しみや涙を目にして、何度もくじけそうになったそうですが、そのたびに「自分にできることは何だろう」と考えたみたいです。そこで「大切な命」を少しでも元通りにしたい、生きていたころのほほえみの表情に戻したいと強く思って、復元ボランティアの活動を続けていったということでした。

ここに、笹原さんの書いた本があります。題名は『おもかげ復元師の震災絵日記』です。出会った人たちを忘れないように、スケッチブックに顔と文章を書きとめたものです。先生は冬休みにこの本を読みました。きっかけは、東部小学校の先生方の話を聞いたからです。2学期の始めに飯尾先生が被災地にボランティアに出かけた時のことを写真をみんなに見せながら話してくださいましたね。鈴木先生も一緒にボランティアに出かけました。その後、菅原先生が、世の中にはいろいろな仕事がありますよと、中日新聞の仕事がのっているコーナーを紹介して、将来の夢を考えるきっかけになるよと話してくださいましたね。その話を聞いたあとに、復元納棺師という仕事があるのを知りました。



先生は、飯尾先生や鈴木先生のように被災地にボランティアにいったことがないので、えらそうなことは言えませんが、みんなと一緒に「命の大切さ」を

真剣に考える時間をもつことができると思いました。そして、自分の大切な命と同じように、友達や、家族、親戚の人、近所の人、学校の先生たちなど、みんなが関わっている人たち全部の命が大切だということに気がきます。そう考えれば、自分が生かされていることや周りの人たちに「感謝する心」もわいてきますね。

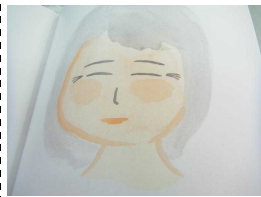
それでは読みます。聞いてください。



「あ、お母さんだ。毎日お弁当作りありがとう」



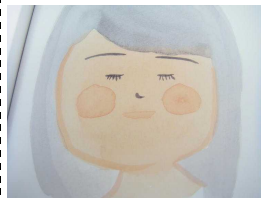
「パパ、さようなら」
「さようなら はさみしすぎる。『またね』にしようよ」
「パパ…… またね」



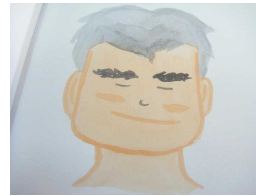
「こんなことになるなら、あの朝、母さんとケンカなんかするんじゃないか。『いつもありがとう』って言えばよかった」



「お父さん」って言ったら
「来るな」ってお父さん叫びながら波の中に消えて行ったの……。



「探して 探して やっと見つけたんです」
「ごめん、ごめん…… お父さん、守ってやれなくて……」



「とうちゃん」
6才の息子さんの声が大きく安置所にひびいたね……
お父さんは いつもあなたの傍にいる。

今読んだのは、本の一部です。大きな文字で書いてありますので、「読みたい」と思った人は遠慮なく先生に借りにきてください。

最後に、先週成人式がありました。テレビで見た人もいたと思います。東日本大震災で亡くなった友達の写真を胸に抱いて出席した男子学生がこんなことを言っていました。「小さい時からずっと仲良かったのにヒロはもういない(ヒロというのは友達の名前です)。一緒に20歳を祝いたかったのに。でも悲しんでばかりではいけない。自分にできること、勉強と人の役に立てるよう一生懸命に生きていきたい。そして、自分のまわりの人に笑顔で接したい」この言葉がとても印象的でした。

これでお話を終わります。

第三学期学級委員認証

今年度の仕上げの時期となる3学期の学級委員の認証を行いました。みな学級の代表としてしっかりがんばろうという気持ちが、元気な返事ときりっと引き締まった表情に表れていました。それぞれの学年が自信をもって次の学年に進級できるよう、きっと先頭に立って活躍してくれるものと期待しています。

2年	君	さん
3年	君	さん
4年	君	さん
5年	君	さん
6年	君	さん

個人情報保護のため氏名は控えさせていただきました。